

ウランバートル市における障害者の 社会参加促進プロジェクト



ニュースレター第1号
2017年10月



DET フォーラムモンゴル法人設



5名の役員

8月30日、障害平等研修（DET）のファシリテーターがプロジェクト事務所に集まりました。目的は、法人登録に向けた協議。今後、NGOとして自立した運営ができるような組織の体制を整えていきます。法人化する方針で合意した後、役員、監査役を選定しました。選び方からまた議論。3時間以上会議が続きました。激論の結果、役員5人、監査役3人、会長と副会長が決定しました。初代会長に選ばれたのはエンフニャムさん（上・写真中央）。「DET フォーラムモンゴル」はこれから組織の規則案の作成など、設立に向けて動き出します。



ダウン症協会理事との面談

ダウン症協会・理事、元環境開発大臣/外務大臣のOYUN Sanjaasuren氏とお会いし、プロジェクト紹介をしてきました。



またOYUN元大臣から、モンゴルの障害・政治・環境など幅広い分野について助言を頂きました。障害分野では情報の收拾・整理・発信が重要で、例えば、障害児の親はどのように養育すべきかわからない人が多いとのこと。情報発信と啓発は、TVが最も有効とのこと。プロジェクトが開始され、すでに1年。今後は啓発が重要と考えていたので、有意義な会議になりました。

バヤンズルフ区27番ホローのアクセス改善

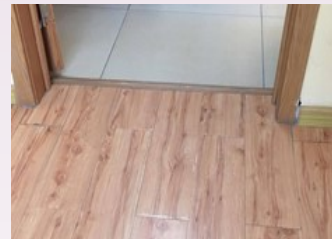
8月31日、プロジェクトメンバーはバヤンズルフ区の第27番ホロー（役場）を訪問しました。このホローでは4月に障害



平等研修（DET）を実施。研修で作成した「アクションリスト」を实践した模範となるホローです。「予算がないので、手すりの設置やスロープの改修を自分たちで行いました」と障害担当のスタッフ。中でもホロー施設内にある病院は、入り口の敷居を平らにして車椅子でも通りやすくしたり、受付カウンターを低いテーブルに変えるなど、障害のある人だけでなく、すべての人にやさしい環境づくりに熱心に取り組んでいました。「誰にでも利用しやすい環境を作るのが私の夢」と語るホロー長のバットデルゲルさん（写真右から2番目）は、ホロー長室で障害のある職員とともに仕事をしています。人口の多いこのホローのアクセスをもっと改善したい、と意気込んでいました。

手すりが付いた階段

敷居がなくなったドア



国立リハビリセンター訪問

9月1日の午後に国立リハビリセンターで勉強会やDET研修（障害者平等研修）などについての会議が開かれました。12月3日には国立リハビリセ



ンターで障害者についての啓発イベントも開かれる予定で、どうすれば多くの人に参加してもらえるかが重要な課題として話されました。より多くの人にイベントについて知ってもらうためにテレビやwebサイト、Facebookなどを通して情報を伝達していくことに決まりました。その他にも今後の研修についての話合いがされ、今後は公共施設の関係者などに対しても啓発活動を行っていき、より公共の施設を使いやすいものにしていきたいという提案がセンター長からされました。最後に9月1日は学校の新学期ということもあり、センター長からは「この様なおめでたい日に充実したミーティングを行うことができ嬉しく思います」という言葉を頂きました。

障害平等研修 (DET研修)



ソンギノハイラル区の役場でDET研修を行いました。前半はウヤンガさん（脳性マヒ）が、後半はチュカさん（肢体不自由）がメインを担当しました。ウヤンガさんにとってメインファシリテータをするのは今回が初めてでした。研修後には「とても緊張していて説明をうまくできなかったのですが、次回は準備をしっかりと臨みたいです。」と前向きに話されていました。後半を担当したチュカさんはすでに何度もメインファシリテータを担当されています。丁寧で親しみやすい話し方で説明され、参加者の方々もチュカさんと話し合いながらグループワークに取り組んでいました。障害について理解しているつもりでも、意外と理解できていないことがあります。今回のDET研修を通して、参加者の方々は障害について理解を深められていました。また、参加者からは公共サービスを提供する会社でもこのような研修を実施して欲しいという感想もいただきました。



障害者に日本語教育チーム発足

モンゴル日本センターの日本語教師である斎藤先生、渡辺先生、そして協力隊員・日本語教師の沢先生と視覚障害者協会を訪問しました。モンゴルから日本に研修や留学する障害者は意外と多く、視覚障害者協会でも現在3名を日本に派遣しています。でも日本語はなかなか難しく、正規の教員もいません。そんなおり、斎藤先生から障害者に日本語を教えるはどうかという非常に嬉しい提案を頂き、今回、視覚障害者協会を紹介することになりました。協会の職業訓練専門学校の校長であるガンゾリグ先生も日本語はペラペラで、ぜひ専門の先生に教えて欲しいということでした。実際に授業をするのは10月になりそうですが、それまで視覚障害者用の教材を作成したり、準備にかかります。今回、この3人の先生にはプロジェクトとしても本当に感謝しています。たくさんのモンゴルの障害者が日本で研修を受けられれば、また違った世界が開けると思います。



人権委員会訪問



人権委員会の事務所にて、本プロジェクトと人権委員会との今後の協力についての会議が開かれました。本プロジェクトで実施している障害平等研修（DET研修）について、「是非、人権委員会でも障害平等研修を実施して欲しい」と言っていただき、9月末に行う予定で決まりました。人権委員会では障害についての啓発本を漫画で読みやすくしたり、国連の障害者権利条約に絵をつけて多くの人に読んで、理解してもらうようにしたりと工夫されていました。また、人権委員会の横には30名ほどのジャーナリストで構成されたクラブがあるので、障害啓発活動の情報発信を協力していければと思います。



こんにちは。「ウランバートル市における障害者の社会参加促進プロジェクト（通称DPUB）」チーフアドバイザーの千葉です。2016年5月からプロジェクトを開始しましたが、ようやくニュースレターを発行することができました。これから毎月2回を目標に発行しますので、よろしくお願いします。さて、我々のプロジェクトですが、なぜDPUBと呼ばれているかご存知でしょうか？正式には、Disability Project in Ulaanbaatarの略でDPUBです。でも実はもう一つ別の意味があります。それは、Disability-Pub。障害者が楽しく集まれるプロジェクトにしたい、という思いから名付けました。ぜひモンゴルの皆さんと一緒に障害者の社会参加を進めて行きたいと考えていますので、今後ともDPUBをよろしくお願いします。次号からは、なぜ「障害者の社会参加を促進する」ことが社会に必要なのか。障害に関する話をしていきたいと思います。



DPUBチーフアドバイザー 千葉寿夫

Office: Government Building – 2, United Nation's Street – 5, Ministry of Labor and Social Protection Ulaanbaatar – 15160, Mongolia

Facebook: <https://www.facebook.com/jicadpub>

Website: <https://www.jica.go.jp/project/mongolia/015/index.html>

E-mail: dpub.jica@gmail.com